

# 「貯蓄計画と資産蓄積」

一橋大学経済研究所	安井健悟
大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程	窪田康平
大阪大学大学院国際公共政策研究科	小原美紀

2009年1月22日

## 要旨

本論文は、一般的な経済的、人口学的特徴や選好パラメータでは説明できない家計の資産のばらつきを金融計画（financial planning）が説明するという仮説について、日本のマイクロデータを用いて検証した。OLS の推定結果からは、金融計画のひとつである貯蓄計画を立てることと資産の関係は統計的に有意であるが小さいことが確認されたが、内生性によるバイアスを除去するための 2SLS による推定値は OLS の推定値と比べてかなり大きくなることが確認された。つまり、因果関係の意味で、貯蓄計画は資産蓄積に十分大きな影響を与えるということである。この結果は、米国のデータを用いて同様の手法を用いた Ameriks, J., A. Caplin, and J. Leahy (2003) と整合的である。また、家計における資産蓄積の意思決定に強く影響を与える個人にサンプルを限定して、その個人の計画の効果を計測したところ、限定しない場合と比較して効果が大きいことが確認された。

**Keywords:** 資産蓄積、金融計画、貯蓄、計画性向、選好パラメータ

**JEL Classification Numbers:** D14, D31.